
目

グラビア

扉

研究発表

アメリカにおける簡易楽譜「Shape - Note」
の歴史的意義…………… 6
文教大学 今井民子

日本旋律の複音化論…………… 20
— 洋楽からのアプローチ —
東京都立石神井高等学校 河西保郎

シミュレーション的手法による音楽教育の臨床的アプローチ…………… 34
福岡教育大学 葛西英昭

日本語が歌の中でどのように生かされているか…………… 48
名古屋短期大学 小林満

レオ・ケステンベルクの音楽教育のための「理念」…………… 62
愛知県立常滑市立大野小学校 菅野道夫

幼児の楽器遊び…………… 76
— Combination(配合法)の側面からとらえた指導法のくふう
静岡大学 武田道子

能力別小グループによる自由学習の効果…………… 88
— 学習意欲の高まりによる演奏技能の向上 — (その1)
秋草学園短期大学 田中正

音楽的聴感覚の機能に相関する読譜指導…………… 102
長崎大学 古田正平

第11回学会・口頭発表要旨

1. 音楽教育における鑑賞・理解に関する哲学的研究(Ⅱ)…………… 116
広島女子大学 石井信生

次

2. 音楽における幼児の内的活動…………… 117
— 歌唱指導を通して —
三重大学 川崎智子

3. リーダーの音楽教育原理とそれに基づく音楽学習方略の検討…………… 118
— 発達という観点から —
大阪教育大学 小島律子

4. 子どもの音楽表現の形成と学習…………… 119
島根大学 永田栄一

5. 歌う日本語の研究…………… 120
— エ段の長音化について —
聖徳学園女子短期大学 野々村千恵子

6. 鑑賞教材研究と指導法についての一試案…………… 121
— モーツァルト作曲ホルン協奏曲を例として —
佐賀大学 茂木一衛

7. わが国における音楽教育の「現代化」理念の再検討…………… 122
— 1960年代の民間教育運動を中心に —
山岸敦子

ラウンド・テーブル I…………… 124

ラウンド・テーブル II…………… 132

ラウンド・テーブル III…………… 138

シンポジウム…………… 148

第11回大会報告…………… 160

会則・細則…………… 164・166

編集委員会規定・編集規定…………… 168

研究発表規定・執筆要項…………… 170

役員名簿…………… 172

賛助会員名簿…………… 173